

二〇二三年度

# 適性検査型入学試験Ⅰ

## 注意

- 1 問題は **1** のみで、**7ページ**にわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は**四十五分**で、終わりは**午前九時四十五分**です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号と氏名**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受験 番号	
氏名	

中村中学校



問題は次のページからです。

1 次の文章1と文章2とを読み、あとの問題に答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)  
(\*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

幸福は、すべての人が必ず求めているものだ。それはすべての人に共通する「人生の目標」であって、それぞれいろいろな「将来の夢」とは違うものだという事だ。

では、すべての人が必ず求めるところのその「幸福」とは、何だろう。人は必ずそれを求めるけれども、どうすればそれは手に入れられるのだろうか。

君は、「将来の夢」というのを具体的にもっている。宇宙飛行士になれば、スチュワーデスになれば、幸福になれると思うからだ。だけど、ここでよく考えてみよう。夢に抱いていた職業や生活が実現するということが、幸福になるということなんだろうか。幸福とは、職業や生活のことなんだろうか。

たとえば君は、努力して、憧れの宇宙飛行士になつたとする。ずっと憧れていた夢の職業についたのだから、君はとても幸福になっているはずだ。だけど、仕事はすごくきつくて、毎日ヘトヘトに疲れ、給料だつて思ったより安

15

10

5

い。家族には文句を言われるし、自分も病気になってしまった。なんだ夢の宇宙飛行士の生活って、こんなものだったのか。ちつとも幸福じゃないじゃないか。

そんなふうにも思うようにならないとも限らない。どうしてこうなるのだろうか。もつと極端な例で考えよう。

最近「将来の夢」として、「金持ちになりたい」と言う人が多い。宇宙旅行だつてお金で買える時代だ。苦労して宇宙飛行士になる必要なんか無い。お金があれば何でもできる。そう思うのも無理はない。「金持ちになりたい」と思うのは、金持ちになれば幸福になれると思うからだ。幸福はお金で買えると思うんだ。さて、これは本当だろうか。

なるほど現代社会では、お金で買えないものなんか何もないみたいだ。豪華な家、豪華な服、豪華な旅行、お金があれば好きなだけ買えるし、お金があれば、人にもちやほやされて、寂しい思いをすることも無い。だから、お金がすべて、お金さえあれば幸福なのだ、多くの人が思っている。

だけど、これは間違いだ。豪華な家に住み、豪華な服を着ている人が幸福かという、必ずしもそうではない。そういう人の心は、実はとても不幸で、満たされていないことがほとんどだ。なぜなら、お金持ちになるためには、人

35

30

25

は必ず競争しなければならぬ。人をけ落とし、人の裏をかき、人に裏をかかれぬように絶えず用心し、得たお金を失わないかと不安になり、寄ってくる人は金目当てではないかと常に疑う。信頼しんらいも知らず、愛も知らず、心の安まる時なんか全然ない。だけど、心の安まらない幸福なんて、幸福だと思ukai? いくら豪華な家に住み、いくら豪華な服を着ていても、その人の心は、不安で不幸なままなんだ。

生活はお金で買うことができる。しかし、幸福をお金で買うことだけは絶対にできない。なぜなら、幸福とは、職業や生活のことではなくて、心のことだからだ。心が幸福になるのであれば、人が幸福になることは、絶対にできないからだ。

お金が幸福だと思ふ人は不幸だ。  
これは単純なことだ。お金が幸福だと思つていて、お金がない人は、お金がないのだから自分は不幸だと思つたろう。お金が幸福だと思つていて、お金がある人も、お金もつとなければ自分はまだ不幸だと思つたろう。あつてもなくても、お金が幸福だと思ふこと自体が、人を不幸にしているんだ。なぜなら、お金は外のもので、幸福は内にかないものだからだ。

幸福というのを、お金に代表される、職業、生活、暮ら

60

しづり、外から見てわかる形のことだと思ふことで、人は間違える。どんな職業、どんな生活、どんな暮らしをしていても、その人の心が幸福でないなら、そんなものは幸福ではないということに気がつかないんだ。でも、幸福であるとは、心が幸福であるということ以外ではあり得ない。人がうらやむような生活をしていても、その人の心が幸福であるとは限らない。逆に、心さえ幸福なら、人から見ていかに不幸に見える生活をしていても、その人は幸福だ。他人からどう見えようとも、自分の幸福とは関係がない。これは当たり前なことじゃないか。幸福を他人と比べられると思ふことで、人は自分を不幸にするんだ。

不幸な心は、どんなにお金を積んでも、幸福な心を買うことだけはできない。豪華な家、豪華な服、豪華な旅行、欲しいものは何でも買えるけれど、本当は一番欲しいものがあるはずの幸福な心だけは、買うことができないんだ。すると、一番欲しいものを買うことができないお金なんてもの、どうして人は欲しがらぬのだろう。逆に、お金ではどうしても買えない幸福な心というものは、どうすれば手に入られるのだろう。

簡単だ。幸福な心を手に入れるためには、幸福な心になればいい。人は、幸福な心になりさえすれば、誰だれも必ず幸福になれるんだ。心が幸福でないままに、外に幸福を求め

80

ようとすることから、幸福になるのは難しくなっているだけなんだ。

「心が幸福である」とはどういうことか、君は知りたいと思うだろう。そして、幸福な心になりたいと願うだろう。85

でも君は、本当はそんなことは全部わかっているんだ。たとえば君は、自分が不幸だと感じるのは、どんな時だろう。

自分が気に入らなかつたり、他人がねたましかつたり、誰かを責めなくなつたり、あれこれがこんなふうでなければいいのにと感じる時だね。すべてその逆を想像してみれば90

いい。そうすれば君は、どんな心が幸福な心か、わかるはずだ。

自分を認め、他人をねたまず、何かを誰かのせいにもしない。すべてそのまま受け容れる。そういう心が、不幸でない幸福な心だ。人は心で不幸になっている、自分で自分を不幸にしていると気づくなら、君の心はきつと幸福になるはずだ。

そんなことでもできません、て言いたくなるよね。だって、不幸は外からやってくるものだもの、私にはどうし100

ようもないものだもの、とね。でも、外からやってくるものを受け止めるのは、やっぱり君の心でしかないよね。幸福も不幸も、すべて君の心次第しだいなんだよ。

「人生の目標」をもってみようというところから始まった

話だった。すべての人に共通な「幸福になる」という人生の目標は、人それぞれに具体的な「将来の夢」とは違うものだということだったね。

じゃあ、人生の最終目標は「幸福になる」ということだったと気がついた君は、具体的な「将来の夢」の方は、どうしよう。外側の形に幸福を求めるから不幸になるなら、そんな夢はもたない方がいいのだろうか。110

そういうことではないんだ。「将来の夢」としての職業や生活は、君の努力や才能によつて、実現したりしなかつたりするだろう。もし実現したとしたら、それはそれで幸福なことだ。だけど本当の幸福は、実現したその形の方ではなくて、あくまでも自分の心のありようの方なのだ。そのことを覚えていよう。そうすれば、形の側にどんな不幸が起こつても、君は不幸にならないだろう。幸福でいることができるだろう。

そして、もし夢が実現しそうにないのなら、君はどこかでそれをあきらめなければならぬ。努力が足りなかつたか才能がなかつたか、そう思つてあきらめなければならぬ。だけれども、幸福になることをあきらめる必要はない。君はそんなことでは不幸にはならない。なぜなら、幸福とは、職業や生活の形ではなくて、自分の心のありようそのものだからだ。125

「将来の夢」はあきらめても、「人生の目標」をあきらめなくてもいいのは、人生は死ぬまで続いているからだ。人生は死ぬまで続いているのだから、君は、幸福になることを、死ぬまであきらめなくてもいいんだ、もし自分でそれをあきらめさえしなければ。

（池田晶子『14歳の君へ』毎日新聞社）

## 【注】

\* スチュワーデス……旅客機りよかくきの中で乗客の案内や世話をする係の女性。  
キャビンアテンダント。

## 文章2

アーティストとして、美術だけを続けていくことは、ある意味で危険だな、とも思いました。普通、就職をすれば、自分の仕事がどれだけの成果を上げたのか、すぐにわかるものです。営業の仕事をしていたら、売り上げに成果が表れます。ところが美術の世界では、価値判断がそれぞれに

5

委ねられています。作品ができて、それが果たして世界一の名作なのか、それともただのゴミなのか、自分では判断できません。ある人にとっては宝物でも、またある人にとってはゴミかもしれせん。成果を判断しにくいのです。これは、美術の良い所ではあるのですが、同時に危ういところでもあります。そのような、あやふやな世界で生活を続けたいなら、そのうちに自分を見失ってしまうのではないか。私は不安になりました。

私は、アーティストとして生きるのを、あきらめることにしました。物心ついてから、大好きだった美術ですが、好きすぎて、依存いそんしすぎて、許せない部分も見えてきてしまったのです。大好きなものから離れるのは辛つらかったし、悩んでいる最中に誰かから「関口君は、素敵すてきな作品をつくれるのだから、やめてしまうのはもったいない」と言われれば、心が揺らゆぎました。でも、覚悟かくごを決めました。

20

そして私は、学校の先生になることにしました。先生になれば、毎日たくさんの子どもたちと触れ合うことができます。「美術」を切り口に、できるだけのことをして、彼らの人生に良い影響えいきょうを与えることも可能です。彼らの頭の中に、私が生きた証あかしを残そう。私にとっては、先生も「表現する仕事」だったのです。それに先生になれば、自分の仕事かどれだけの成果を上げたのかを実感できる、そ

25

う考えました。大学四年から先生になるための勉強を始めたので、卒業までに教職課程を履修し終えることができず、一年間大学に残る形で勉強しました。

30

大学の教職課程では、特別支援学校(障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向け、適切な指導や支援をする学校)や、社会福祉施設に実習に行きます。そこで体験したことは、私にとってすごく新鮮でした。自分が今まで、障がいを持つ人や、支援の必要な人に、全然目を向けていなかったことに気づかされました。私は、自分が同じ世の中に生きている人たちについてまったく無知であることを、再び思い知らされました。何も知らないまま大人になってはだめだ。この社会について、もつと知らなきゃいけない。私は先生になるための勉強を通して、世の中をもう一度知ろうとしました。

40

美術の教員免許状を取得したあと、私は私立の知的な障がいを持つ子どもたちが通う特別支援学校に就職し、中学部で働いています。そこでは、自閉症をはじめ、さまざまな特性を持った中学生と出会い、日々一緒に遊んだり、勉強したりしています。

45

今までまったく知らなかった分野にアタックするわけですから、最初はわからないことばかりで大変でした。生徒たちの言葉や動きから、彼らの心の内を読み取れないこと

がある、どう対応してよいかわからず、特に悩みました。そんなときは「生徒たちの目には、世の中はどんな風に見えるのだろうか?」と想像し、必死になって彼らの目線に立とうとしました。それは言うほど簡単ではありませんでしたが、世界がこれまでと少し違って見えてくるような体験でもありました。

55

そして、美術の時間に彼らの手から生まれる表現の素晴らしいこと。どうすればその素晴らしいさをもっと引き出せるか、美術の授業案を考える時は、いつもあれこれ頭を悩ませます。これまでは、自分の内なるものを表現するのが一番楽しいことでしたが、誰かの表現を引き出すことも、同じくらい楽しいとは思いませんでした。それは、新聞紙とガムテープにひたすら向き合っているときには、得られない充実感を持っていました。

60

頭が完全に「教育」に切り替わった時:、「美術」からのいざないがありました。世界的デザイナーの三宅一生さん(みやけいつせい)から、六本木の21\_21 DESIGN SIGHT という会場で行われる企画展に参加しないかと、声がかかったのです。三宅一生さん本人や、非常に有名な彫刻家のイサム・ノグチさん(一九〇四-八八)の作品も出品されます。数万人の人が来場することが予想される、大規模な企画展でした。

70

こんなにたくさんの方が私の作品を見てくれるチャンス

は、今回を逃したら二度と訪れないでしょう。それに、三宅一生さんが私を指名してくれたことで、私にしかできない表現が求められているのだという、使命感も湧きました。私は一度あきらめてしまった自己表現に、もう一回取り組むことにしました。先生の仕事は忙しかつたですが、先生になったことで得た喜びや、培われた新しい価値観や視点を表現したいという思いもありました。

企画展のタイトルは、『XXI.c. 21世紀人』でした。この世紀に、人間たちは、どのように生きていけばいいのか。それを考える展示なのだ、私は解釈しました。

いま地球は、温暖化や、国と国との対立など、多くの問題を抱え、不安な要素が大きいです。でも、二一世紀は、私たち若い世代が生きていく時代です。そして、私の働いている学校に通う子どもたちの生活の舞台でもあります。85

企画展に参加する作家の中で、当時二四歳の私は最年少でした。私は若い世代の代表として、また子どもたちのそばで日々働いている身として、「希望」を表現しようと思いましたが。私のつくった作品は、平和のため、地球環境のために、具体的な方策を示すことはできません。でも、みんなを明るく気持にすることはできます。私は、久し振りに大量の新聞紙を手元を集め、大量のガムテープを握りしめました。そして、学校の夏休みの期間や、日曜日など

の休日を利用し、巨大な木の上から蝶が羽化して飛び立つ姿を表した、高さ七メートルの立体作品、『明るい夜に出發だ』をつくり、出品しました。

『明るい夜に出發だ』は、三宅一生さんをはじめ、みんな好意的に受け入れてくれました。そしてこの展示を通し、私は自己を表現していくことがいかに楽しいことだったかを、改めて思い出しました。

今私は、学校の中で日々、自己表現の楽しさを生徒に教えようとしています。美術の授業案を練り、実践しています。授業では褒めて褒めて、褒め上げて生徒の良さを引き出すやり方をしています。そうして出てきた生徒の表現はとても刺激的で、私の作品はすぐに影響を受けます。これからも私は、生徒に投げかけ、投げ返されながら刺激しあい、お互いに素敵な作品をつくっていきたいと思います。今は生徒が、私の良きライバルなのです。

（関口光太郎「表現したくて、いろいろ困る」

『表現する仕事が見たい！』岩波書店 所収）

〔問題1〕アーティストとして生きるとありますが、筆者

にとってこの職業は、**文章1**ではどのように表現されていますか。解答らんに書きなさい。

〔問題2〕**文章1**では「人生の目標」について述べられています。

**文章2**の筆者の「人生の目標」はどのようなことだと考えられますか。**文章2**の言葉を使い、解答らんに書きなさい。

〔問題3〕幸福になるために、あなたは何を意識してどのように過ごしていきたいですか。**文章1**と**文章**

**2**の内容をふまえ、具体的な例を挙げながらあなたの考えを書きなさい。なお、内容のまとめりやつながりを考えて段落に分け、四百字以上四百十字以内で書きなさい。ただし、下の〔きまり〕にしたがうこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合は行をかえてはいけません。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じますめに書きます。（ますめの下に書いてもかまいません。）
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えませ